



中部電力

2020年度 決算説明会資料

2021年4月

I 2020年度 決算概要	＜スライド番号＞	III 参考データ：経営関連	＜スライド番号＞
決算概要	1	連結経常損益・純損益の推移	19
セグメント別決算概要	4	資金調達・有利子負債残高の推移	20
発電電力量	8	連結キャッシュ・フローの推移	21
(参考) 期ずれ影響のイメージ(実績)	9	連結財務体質の推移・格付	22
2021年度 業績見通しの概要	10	連結ROA・ROEの推移	23
株主還元に関する考え方および	12	株主総利回り(TSR)の推移	24
当期・次期の配当		ミライズグループ販売状況について	25
(参考) 期ずれ影響のイメージ(年度見通し)	13	ミライズ販売電力量の月別推移	26
		再生可能エネルギー事業の概要	27
II 参考データ：決算・財務関連	＜スライド番号＞	海外事業の概要	28
連結収支比較表	14	浜岡原子力発電所の審査状況	30
連結財政状態の概要	15		
連結キャッシュ・フロー	16		
2021年度 セグメント別業績見通し	17		
再生可能エネルギー-固定価格	18		
買取制度における収支影響			

I 2020年度 決算概要

(注) 「年度」表記は4月から翌年3月までの期間を指します。
表示単位未満の数値について、金額は切り捨て、販売電力量や発電電力量などの諸元は四捨五入で記載しております。

〈決算のポイント〉（連結）

- 売上高：2兆9,354億円
新型コロナウイルス感染症の影響などによる販売電力量の減少(△1,181億円) などから、前期に比べ 1,305億円の減収
- 経常利益：1,922億円
販売電力量の減少など新型コロナウイルス感染症の影響(△300億円程度)や期ずれ差益の縮小(△160億円[390億円→230億円])などはあったものの、今冬の需給ひっ迫影響(+200億円程度)やJERAにおいて、前年発生したLNG売却関連損失の反動(+250億円) などから、前期に比べ 4億円の増益
(参考) 期ずれを除いた経常利益：1,690億円程度

- ・ 売上高は、2016年度以来、4年ぶりの減収
- ・ 経常利益は、2019年度に続き、2年連続の増益
- ・ 2015年度以来、5年ぶりの減収増益

(億円,%)

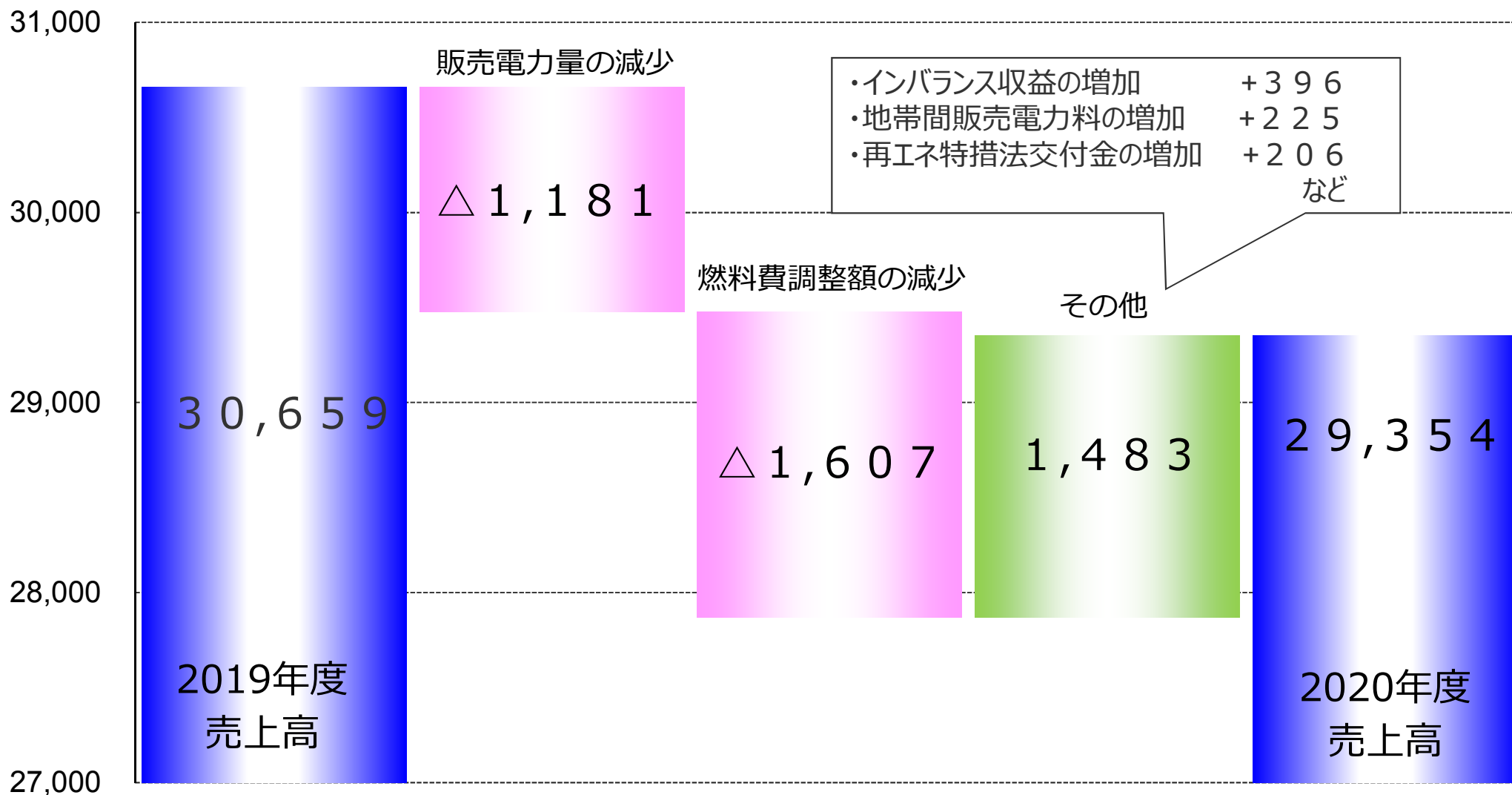
	2020年度 (A)	2019年度 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
売上高	29,354	30,659	△1,305	△4.3
営業利益	1,456	1,308	148	11.4
経常利益	1,922	1,918	4	0.2
特別利益	—	190	△190	—
親会社株主に帰属する当期純利益	1,472	1,634	△162	△10.0

(注) 連結対象会社数 2020年度 連結子会社 39社(+ 4社) 持分法適用会社 53社(+ 12社) [() 内は前期差]

決算概要②

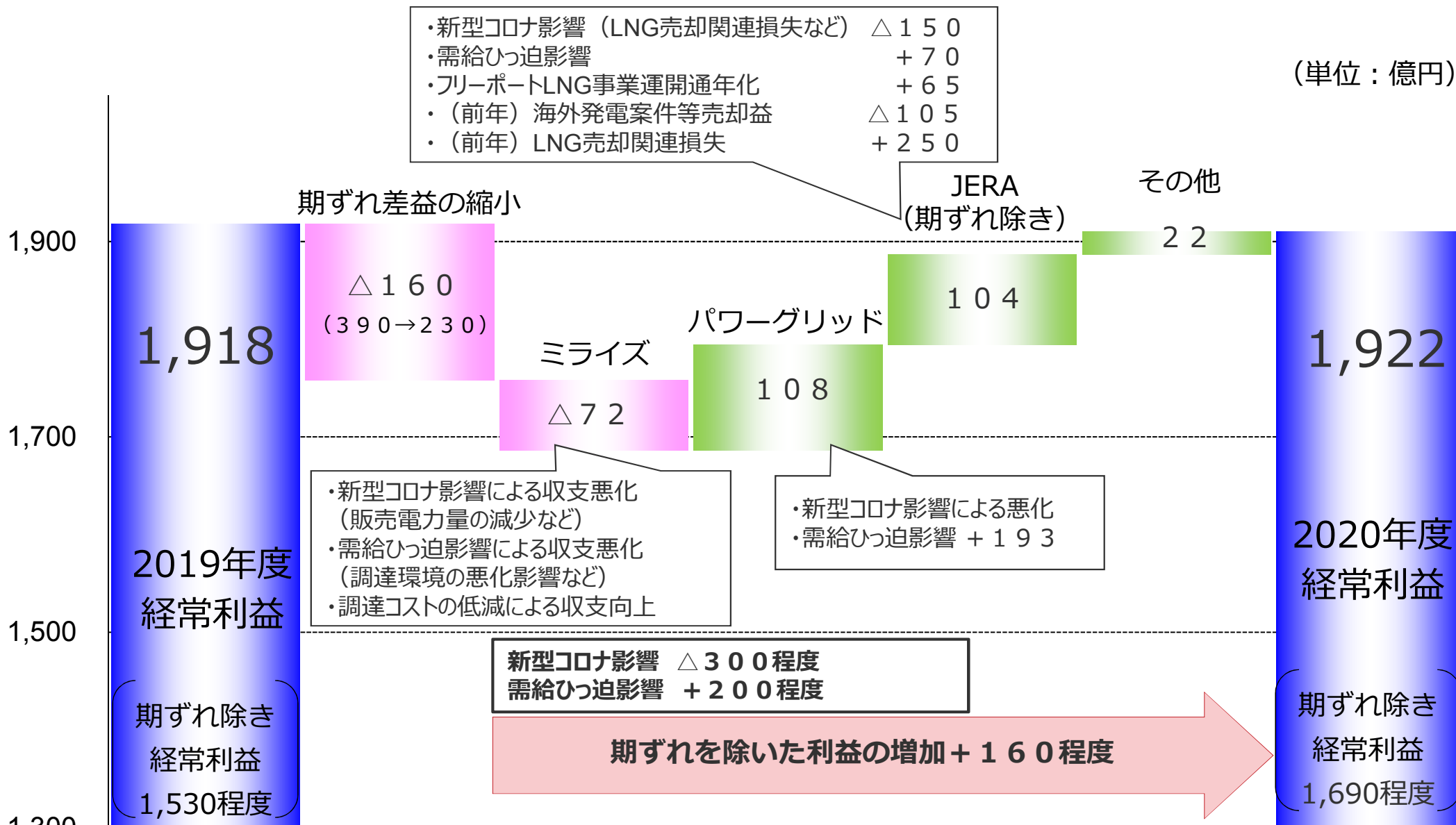
〈連結売上高の変動要因〉 (1,305億円の減収)

(単位：億円)



決算概要③

〈連結経常利益の変動要因〉 (4億円の増益)



セグメント別決算概要①

【売上高】

(億円,%)

	2020年度 (A)	2019年度 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
ミライズ	24,182	26,603	△2,421	△9.1
パワーグリッド	8,428	7,515	912	12.1
その他(※1)	7,305	7,641	△335	△4.4
調整額	△10,562	△11,101	538	△4.9
合計	29,354	30,659	△1,305	△4.3

【経常損益】

(億円,%)

	2020年度 (A)	2019年度 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
ミライズ	380	452	△72	△15.9
パワーグリッド	588	479	108	22.7
J E R A (※2)	656	712	△55	△7.8
その他(※1)	574	407	167	41.0
調整額	△277	△133	△144	108.1
合計	1,922	1,918	4	0.2

(注) 各セグメントは内部取引消去前で記載しております。また、グループ会社のセグメント区分変更に伴い、2019年度実績の組替えを実施しております。

※1 その他の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、当社の再生可能エネルギーカンパニー、原子力部門、管理間接部門、その他の関係会社等を含んでおります。

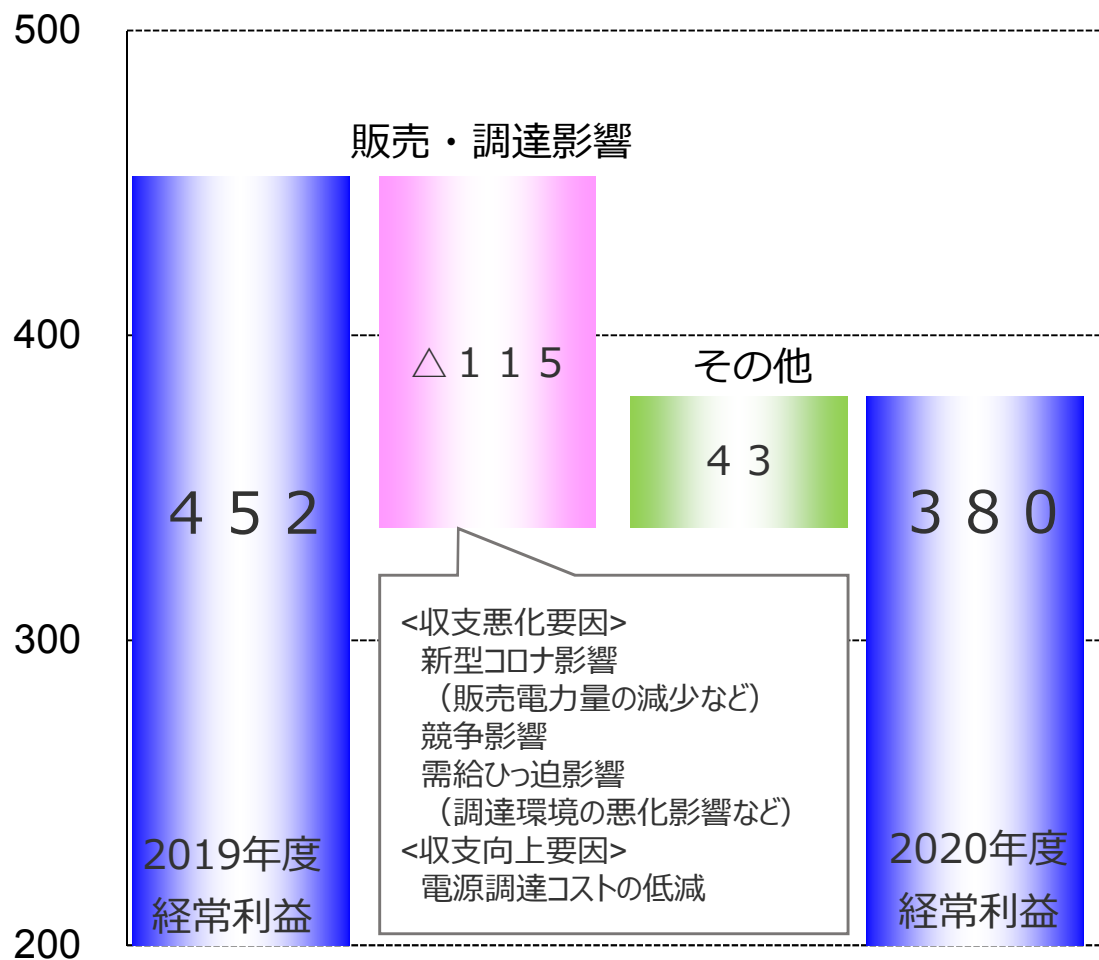
※2 J E R A は、持分法適用会社のため、売上高は計上されません。

セグメント別決算概要②：ミライズ

〈経常利益の変動要因〉

- 電源調達コストの低減に努めたものの、新型コロナウイルス感染症の影響などによる販売電力量の減少や、今冬の需給ひっ迫期間における調達環境の悪化影響などから、前期に比べ 72億円の減益

(単位：億円)



(販売電力量)

(億kWh,%)

	2020年度 (A)	2019年度 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
低圧	339	346	△8	△2.2
高圧・特別高圧	769	826	△58	△7.0
合計	1,107	1,172	△65	△5.6

[参考]

グループ合計の 販売電力量	1,171	1,225	△54	△4.4
他社販売電力量	98	99	△1	△1.3

※ 2019年度の販売電力量は販売カンパニーの実績を記載しております。

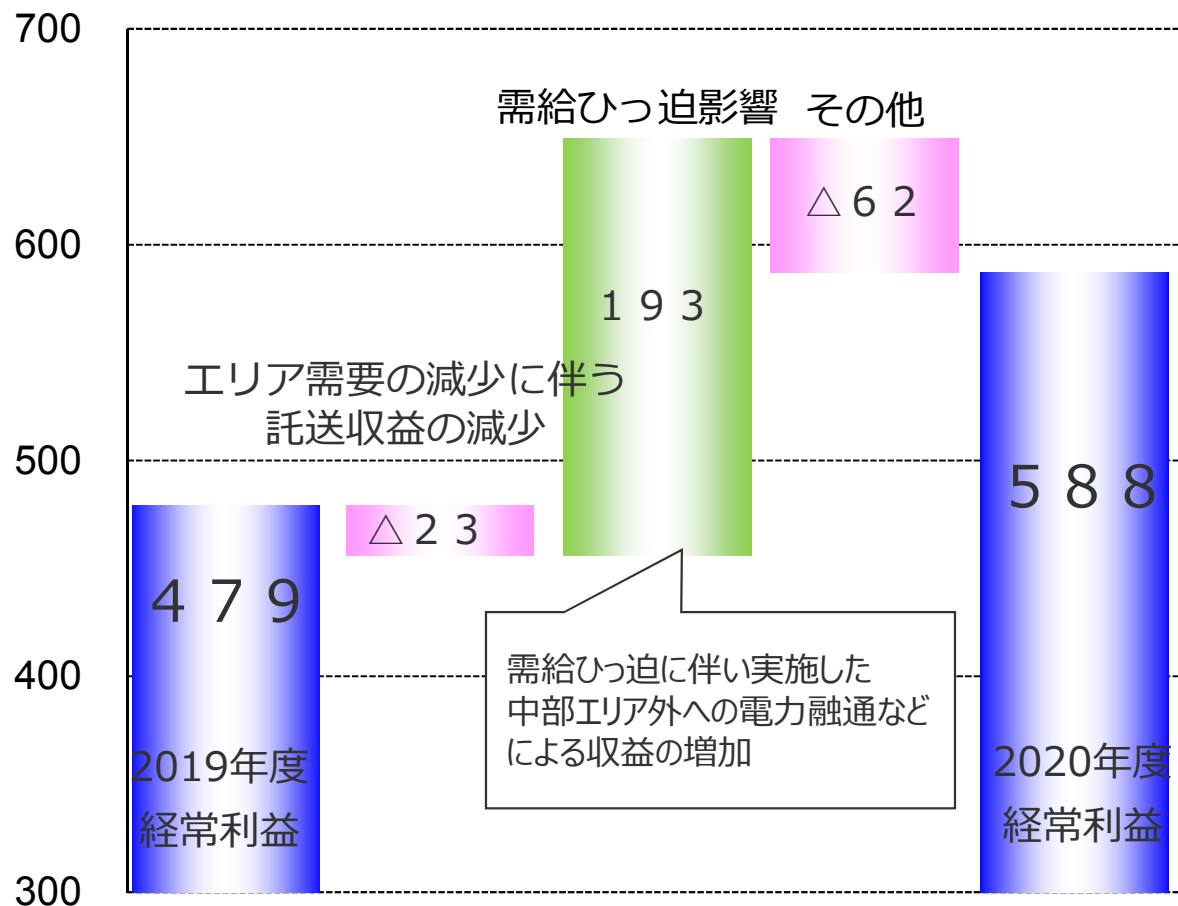
※ グループ合計の販売電力量は中部電力ミライズおよびその子会社、関連会社の実績を記載しております。

セグメント別決算概要③：パワーグリッド

〈経常利益の変動要因〉

- 新型コロナウイルス感染症の影響によるエリア需要の減少はあったものの、需給ひっ迫に伴い実施した中部エリア外への電力融通などによる収益の増加などから、前期に比べ 108億円の増益

(単位：億円)



(エリア需要)

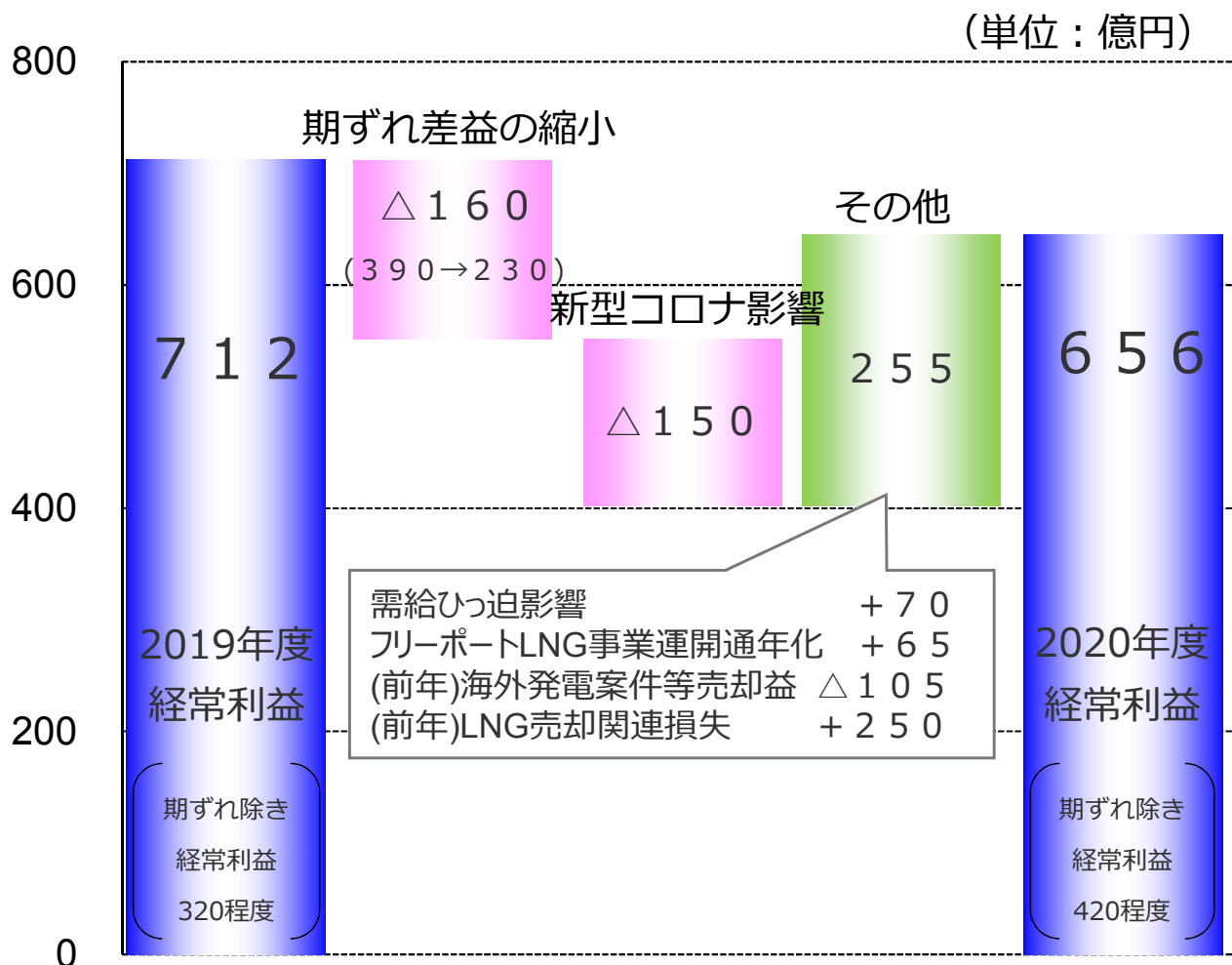
(億kWh,%)

	2020年度 (A)	2019年度 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
エリア需要	1,239	1,269	△31	△2.4

セグメント別決算概要④：J E R A

〈経常利益の変動要因〉

- 前年発生したLNG売却関連損失の反動などはあったものの、期ずれ差益の縮小や新型コロナウイルス感染症の影響などから、前期に比べ 55億円の減益



(CIF価格・為替レート)

	2020年度 (A)	2019年度 (B)	増減 (A-B)
原油CIF価格 (\$/b)	42.9	67.8	△24.9
為替レート(円/\$)	106.1	108.7	△2.6

※2020年度の原油CIF価格は速報値

(参考：JERA連結決算値)

	2020年度 (A)	2019年度 (B)	増減 (A-B)
連結純利益(億円)	1,578 (1,116)	1,685 (900)	△106 (+215)

() 内は期ずれ除き連結純利益

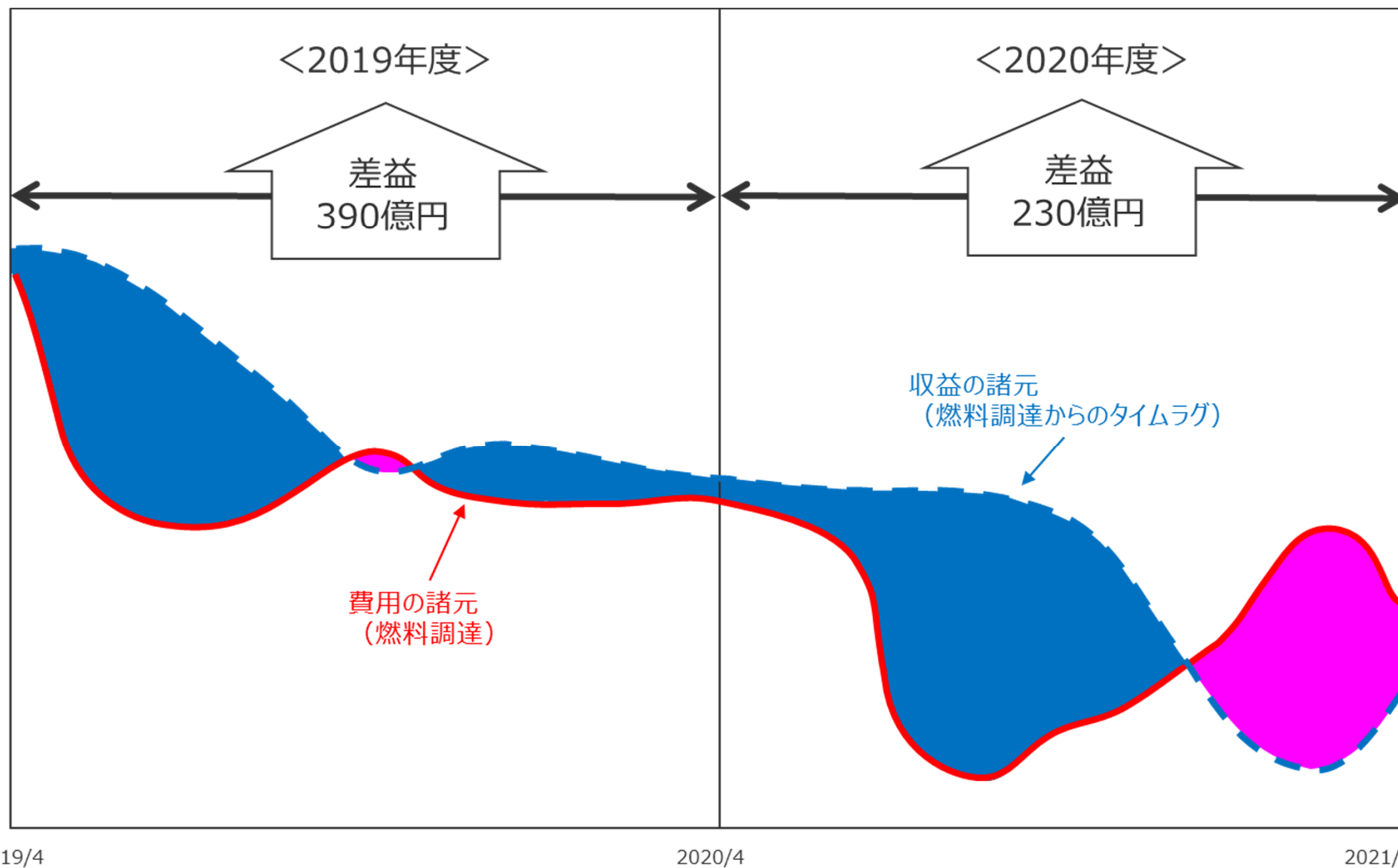
〈発電電力量〉（中部電力）

- **水力** 出水率が前期を下回ったことから、5億kWh減少
- **新エネルギー** 四日市バイオマス発電所が運開したことなどから、3億kWh増加

(億kWh,%)

	2020年度 (A)	2019年度 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
水力 (出水率)	83 (99.6)	87 (101.2)	△5 (△1.6)	△5.2
原子力 (設備利用率)	— (—)	△2 (—)	2 (—)	—
新エネルギー	4	1	3	278.7
合計	87	86	1	1.2

(参考) 期ずれ影響のイメージ (実績)



2021年度 業績見通しの概要①

〈業績見通し〉（連結）

- 売上高：2兆3,600億円
燃料費調整額の増加はあるが、「収益認識に関する会計基準」の適用※（前期比△6,200億円程度）などから、減収
※再生可能エネルギー固定買取制度に係る費用・収益などを純額処理に変更している（利益影響なし）
- 経常利益：1,300億円
新型コロナウイルス感染症の影響の反動による増益要因はあるが、期ずれ差益が期ずれ差損に転じることに加え、需給ひっ迫影響など前年における一時的な収支押し上げ要因の反動や販売電力量の減少などもあり、減益（期ずれを除いた利益は、1,500億円程度となる見込み）

- ・ 売上高は、2020年度に続き、2年連続の減収
- ・ 経常利益は、2018年度以来、3年ぶりの減益
- ・ 2016年度以来、5年ぶりの減収減益

(億円,%)

	2021年度予想 (A)	2020年度実績 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
売上高	23,600	29,354	△5,750程度	△19.6
経常利益	1,300	1,922	△620程度	△32.4
親会社株主に帰属する当期純利益	950	1,472	△520程度	△35.5

2021年度 業績見通しの概要②

【主要諸元】

(中部電力ミライズの販売電力量)

(億kWh,%)

	2021年度予想 (A)	2020年度実績 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
販売電力量	1,099	1,107	△8	△0.7
グループ合計の販売電力量	1,180	1,171	9	0.7

※ グループ合計の販売電力量は、中部電力ミライズおよびその子会社、関連会社の値を記載しております。

(その他)

	2021年度予想 (A)	2020年度実績 (B)
原油CIF価格 (\$/b)	62程度	43
為替レート (円/\$)	110程度	106
原子力利用率 (%)	—	—

株主還元に関する考え方および当期・次期の配当

〈株主還元に関する考え方〉

- 電力の安全・安定的な供給のための設備投資を継続的に進めつつ、成長分野への投資を推進することで、持続的な成長を目指し、企業価値の向上に努めてまいります。
- 株主還元については、重要な使命と認識し、安定的な配当の継続を基本としながら、利益の成長を踏まえた還元を努め、連結配当性向 30%以上を目指してまいります。

〈当期(2020年度)の配当〉

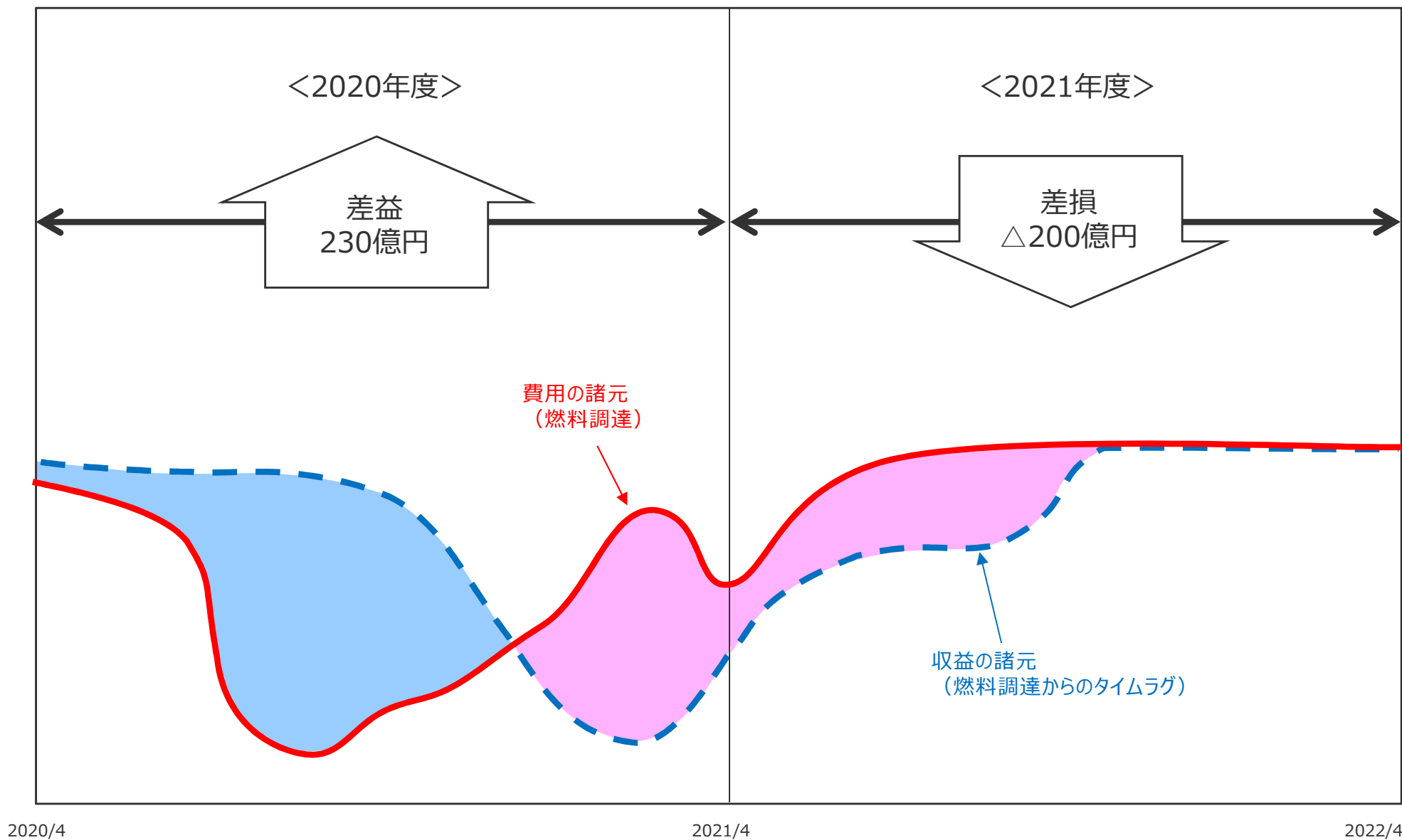
- 2020年度の期末配当金については、上記「株主還元に関する考え方」に基づき、中間配当金と同様、1株につき **25円**を予定しております。

	2020年度	2019年度
1株当たり 中間配当金	25 円	25 円
1株当たり 期末配当金	25 円	25 円
合 計	50 円	50 円
期ずれ補正後の 連結配当性向	30.4%	30.4%

〈次期(2021年度)の配当〉

- 2021年度の配当予想については、上記「株主還元に関する考え方」に基づき、2020年度の年間配当を継続する水準である、1株につき **年間50円**を予定しております。

(参考) 期ずれ影響のイメージ (年度見通し)



Ⅱ 参考データ：決算・財務関連

連結収支比較表

(億円,%)

	2020年度 (A)	2019年度 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
営業収益 (売上高)	29,354	30,659	△1,305	△4.3
持分法による投資利益	620	771	△150	△19.5
その他収益	85	107	△21	△20.2
営業外収益	706	878	△172	△19.6
経常収益	30,060	31,538	△1,477	△4.7
営業費用	27,897	29,351	△1,454	△5.0
営業外費用	241	268	△27	△10.3
経常費用	28,138	29,620	△1,481	△5.0
(営業利益)	(1,456)	(1,308)	(148)	(11.4)
経常利益	1,922	1,918	4	0.2
濁水準備金	△0	—	△0	—
特別利益	—	190	△190	—
法人税等	410	431	△20	△4.8
非支配株主に帰属する当期純利益	40	42	△2	△5.7
親会社株主に帰属する当期純利益	1,472	1,634	△162	△10.0

連結財政状態の概要

(億円)

	2021/3末 (A)	2020/3末 (B)	増減 (A-B)
資産	56,863	55,008	1,855
負債	35,826	35,387	439
純資産	21,036	19,620	1,416

<主な増減理由>

関係会社
長期投資の増 +780
(JERAの利益計上による
増加)

自己資本比率(%)	35.7	34.4	1.3
有利子負債残高	23,336	24,250	△914

コマーシャル・ペーパー
の減 △760

連結キャッシュ・フロー

(億円)

	2020年度 (A)	2019年度 (B)	増減 (A-B)
営業活動による キャッシュ・フロー ①	3,841	2,558	1,282
投資活動による キャッシュ・フロー ②	△2,158	△6,476	4,318
財務活動による キャッシュ・フロー ③	△1,411	△58	△1,352
現金および現金同等物の 増減額(※) ① + ② + ③	273	△4,024	4,298

<主な理由>

既存火力発電事業の
JERA統合に伴う調整
金の支払
△3,350

※連結範囲の変更に伴う現預金等の増減額を含む

フリー・キャッシュ・フロー ① + ②	1,683	△3,917	5,600
------------------------	-------	--------	-------

2021年度 セグメント別業績見通し

【経常損益】

(億円,%)

	2021年度予想 (A)	2020年度実績 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
ミライズ	480	380	100程度	26.2
パワーグリッド	400	588	△190程度	△32.0
J E R A	220 (420)	656 (420)	△430程度 (同程度)	△66.5 (-)
その他・調整額	200	296	△100程度	△32.6
合計	1,300 (1,500程度)	1,922 (1,690程度)	△620程度 (△190程度)	△32.4 (△11.2)

() 内は期ずれ除き経常利益

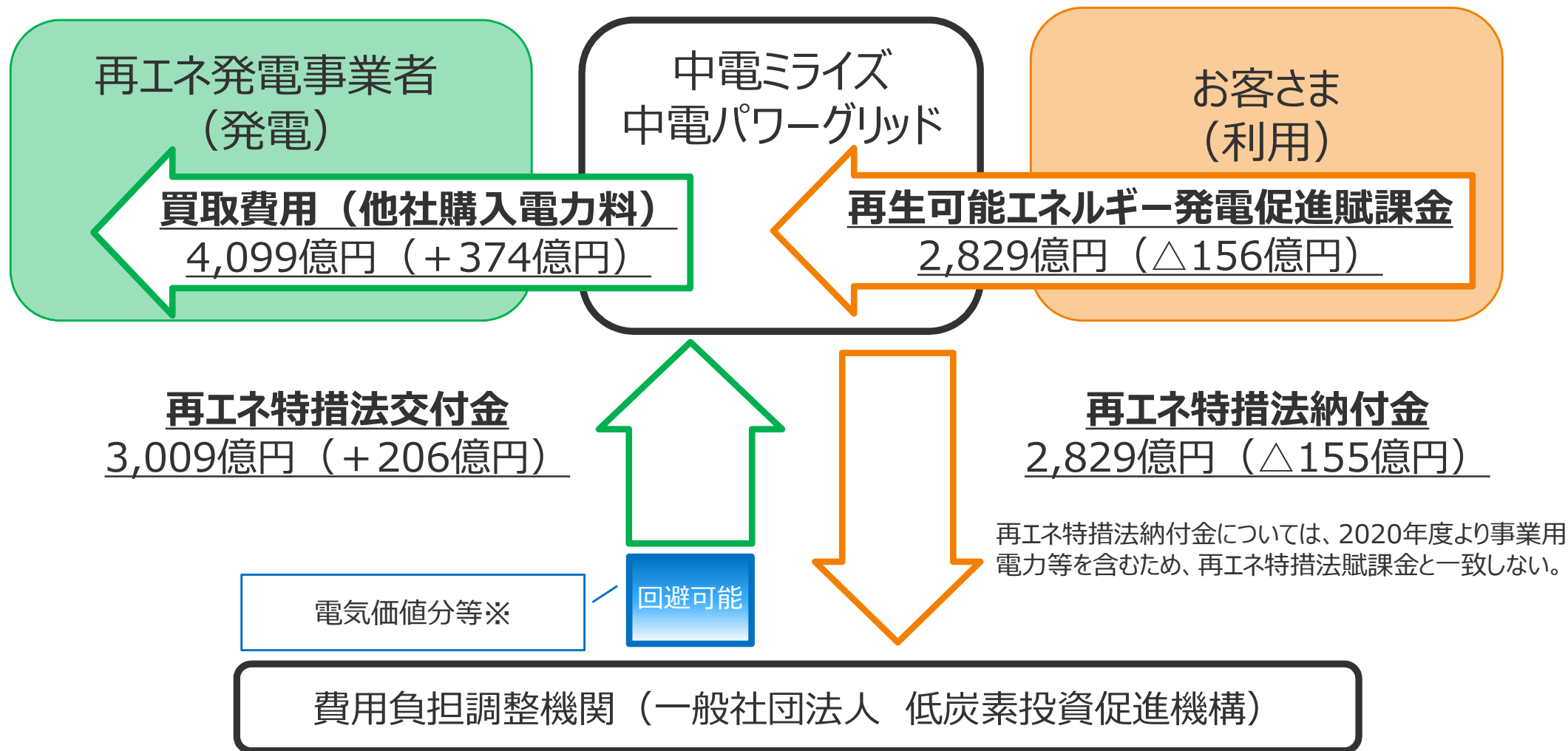
(参考) JERA連結業績見通し

	2021年度予想 (A)	2020年度実績 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
J E R A 連結純利益	700 (1,100)	1,578 (1,116)	△880程度 (△20程度)	△55.8 (△1.8)

() 内は期ずれ除き連結純利益

再生可能エネルギー-固定価格買取制度における収支影響

〈2020年度実績 ※ () 内は前期差〉

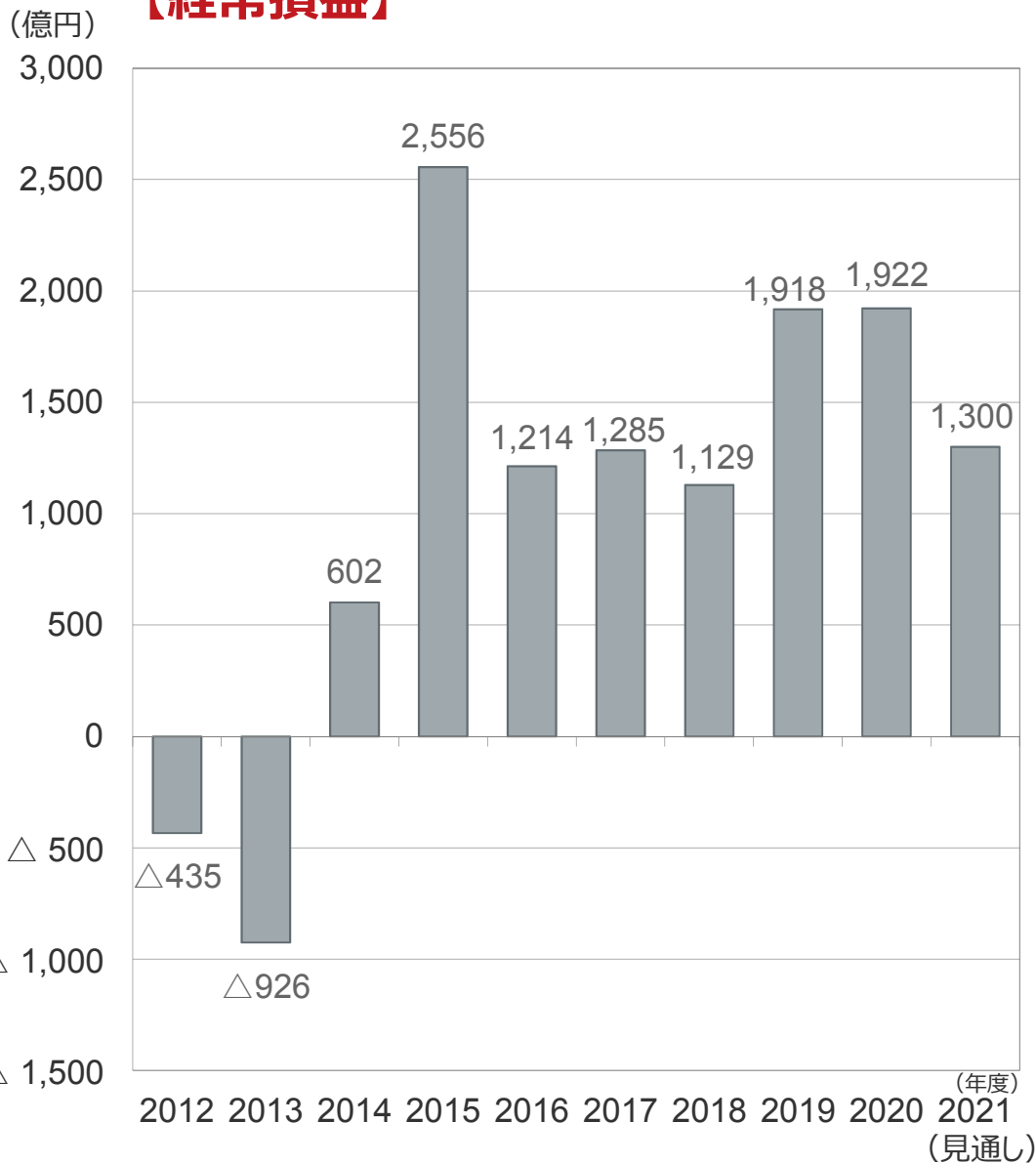


※中電パワーグリッドにおいて、買取義務の履行により生じた買取費用を卸電力取引所における販売収益が上回った場合、その差額は費用負担調整機関を通じてお客さまへ還元される（再生可能エネルギー発電促進賦課金を軽減）。

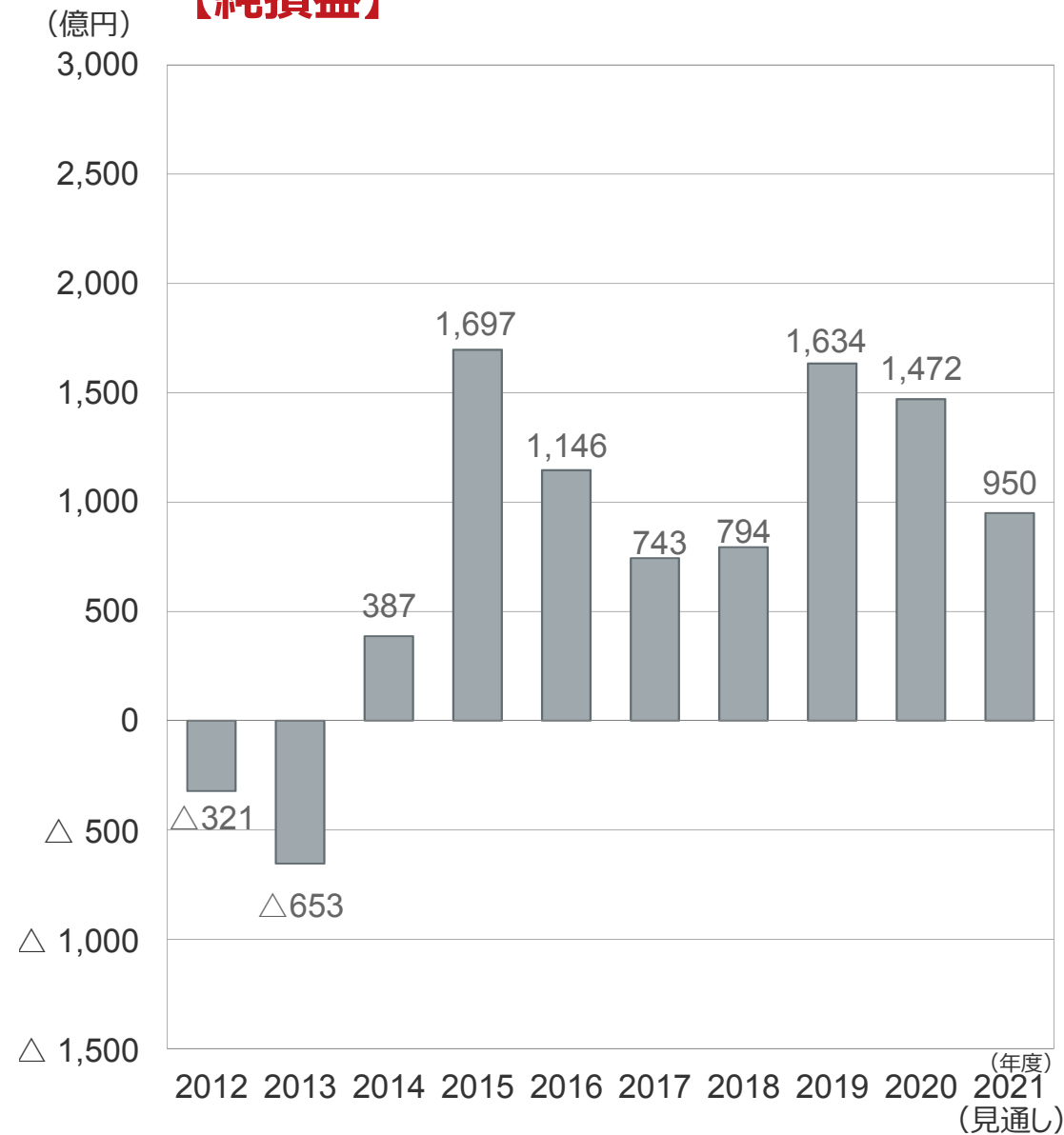
Ⅲ 参考データ：経営関連

連結経常損益・純損益の推移

【経常損益】

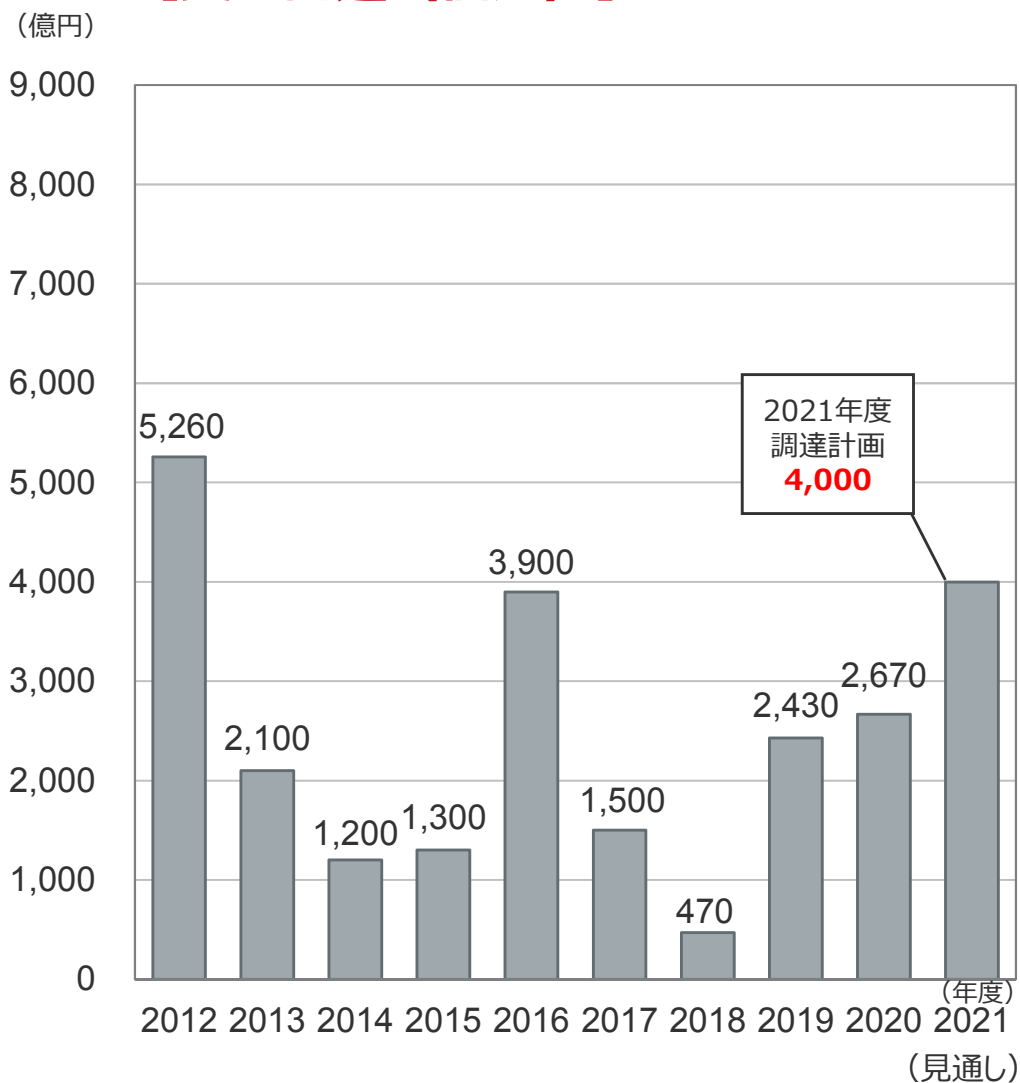


【純損益】

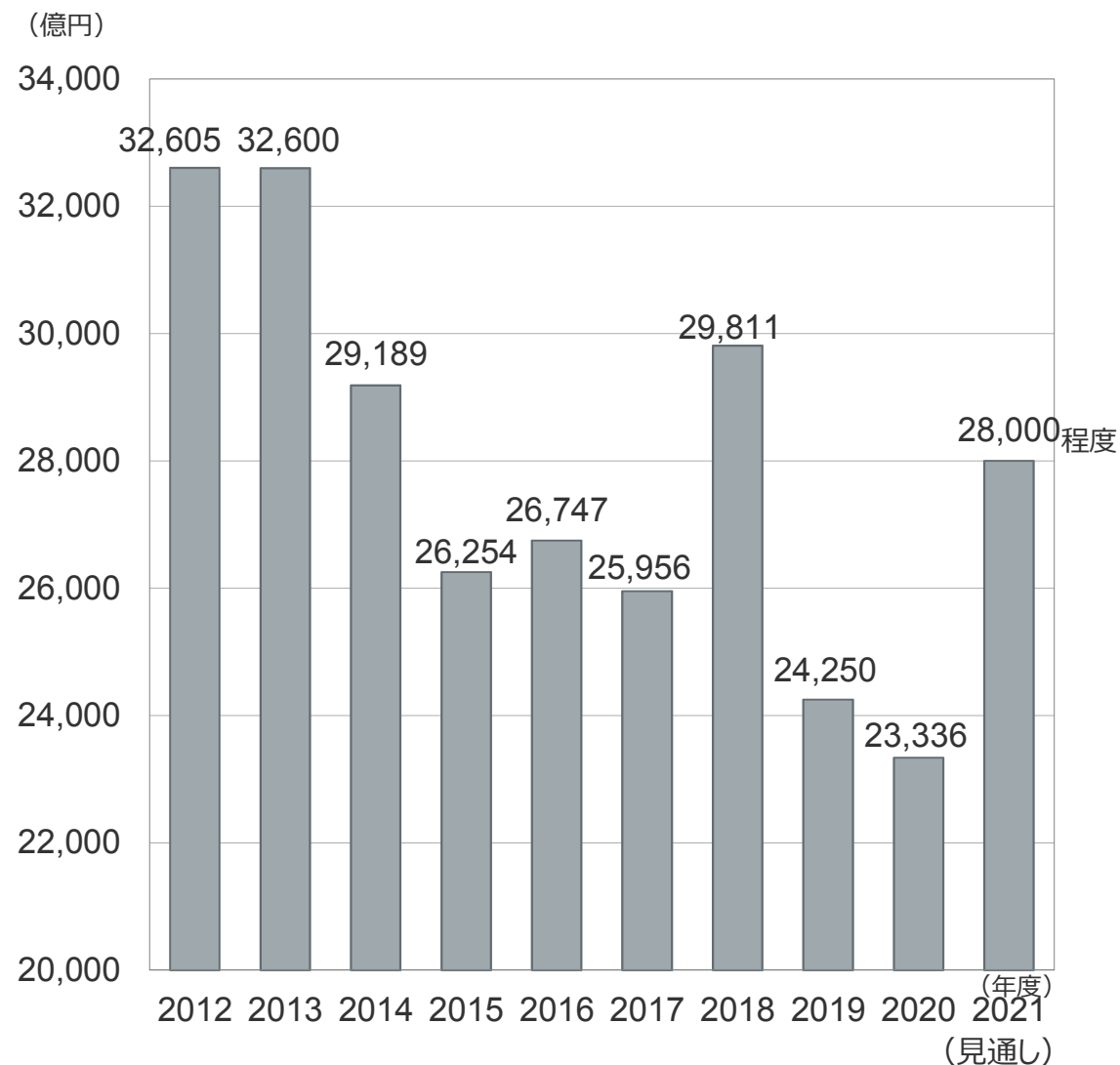


資金調達・有利子負債残高の推移

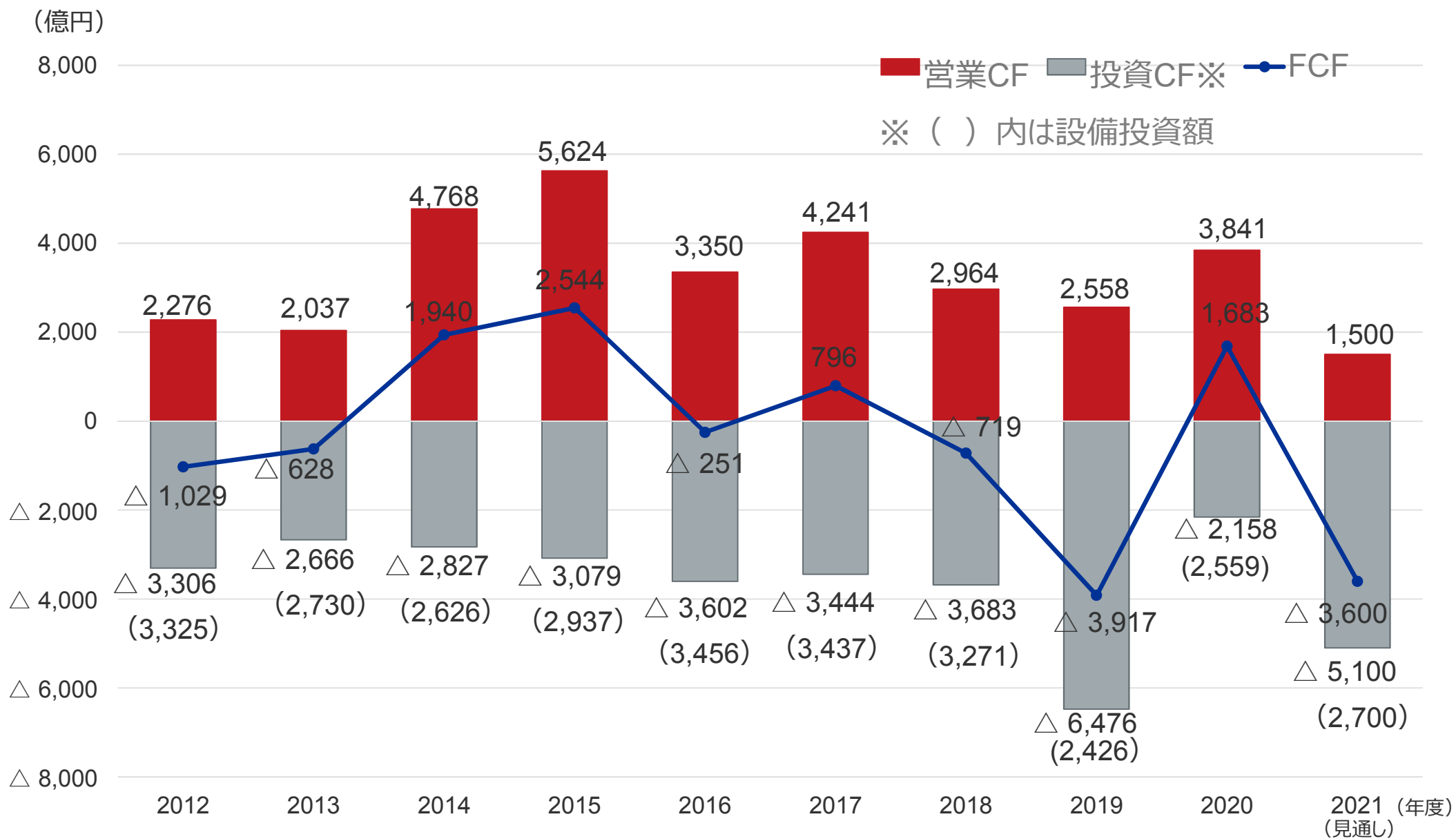
【資金調達（個別）】



【有利子負債残高（連結）】

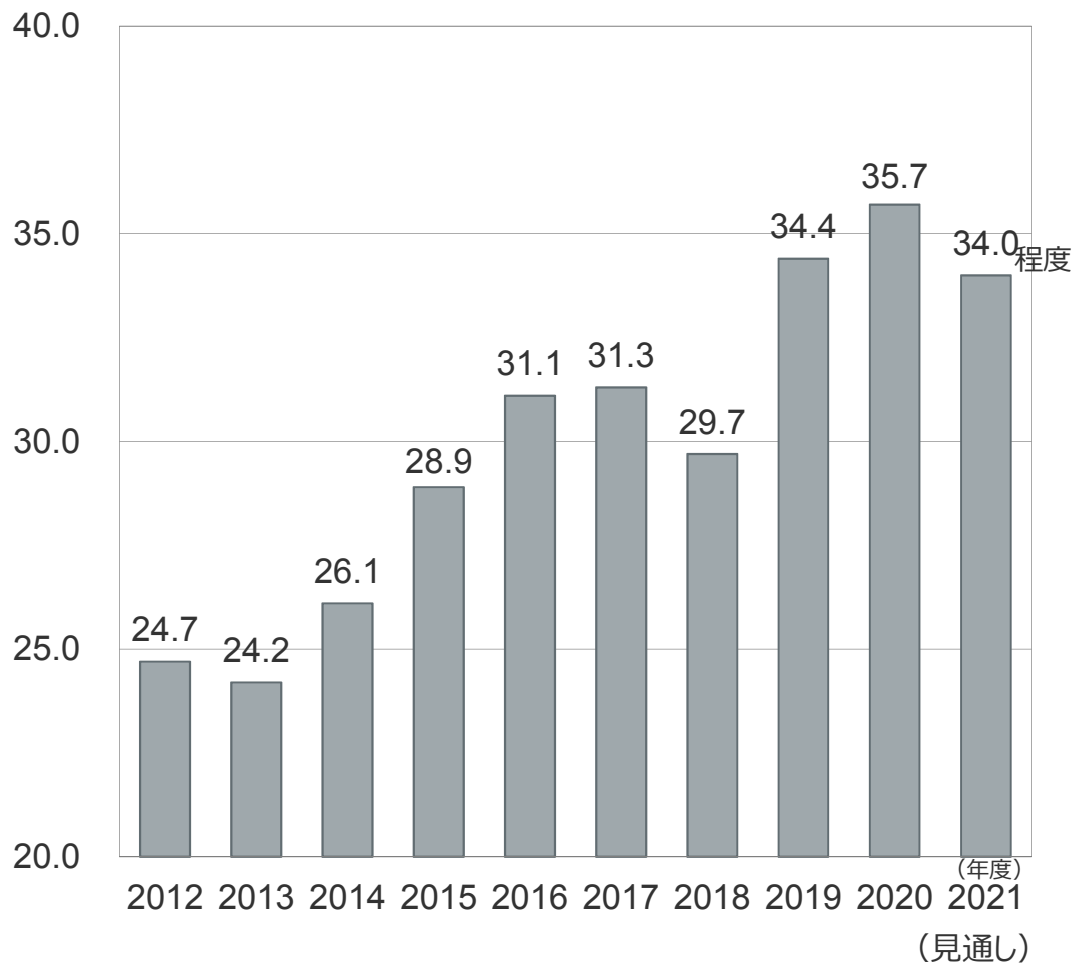


連結キャッシュ・フローの推移

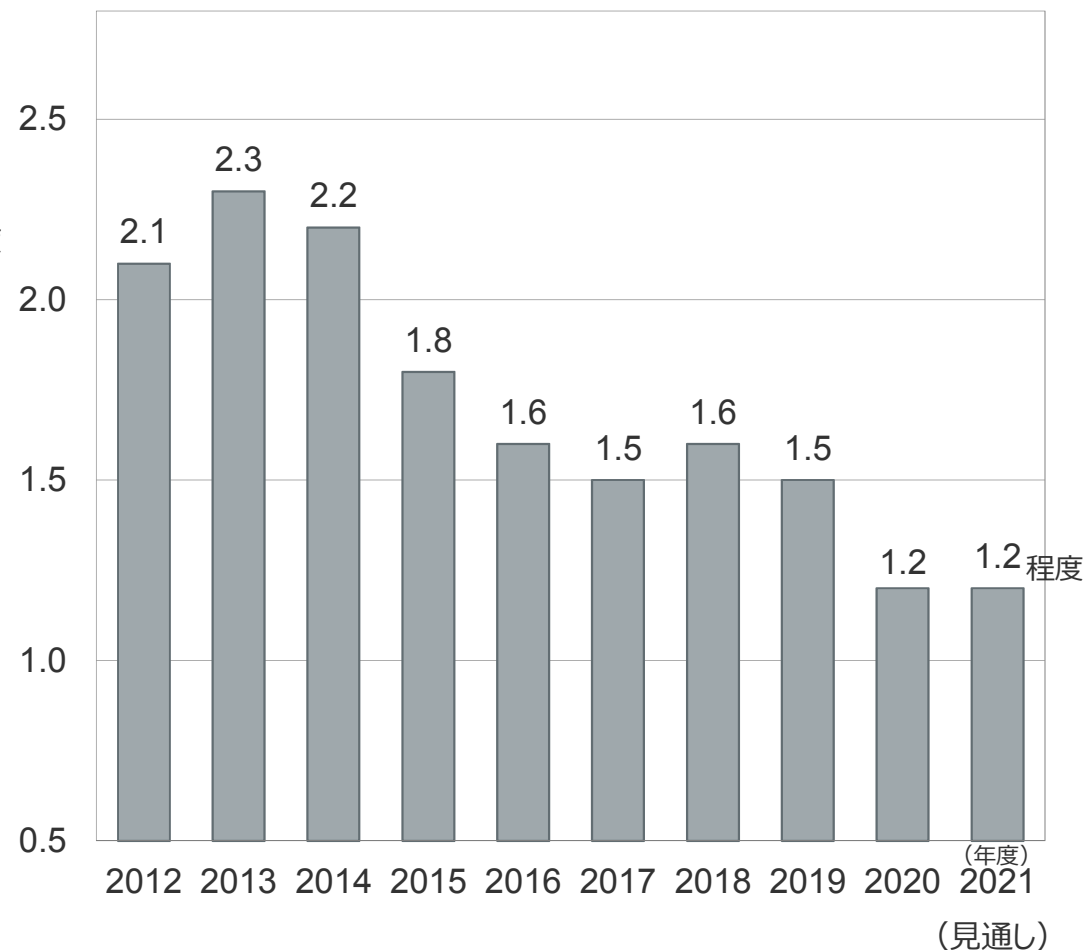


連結財務体質の推移・格付

(%) **【自己資本比率】**



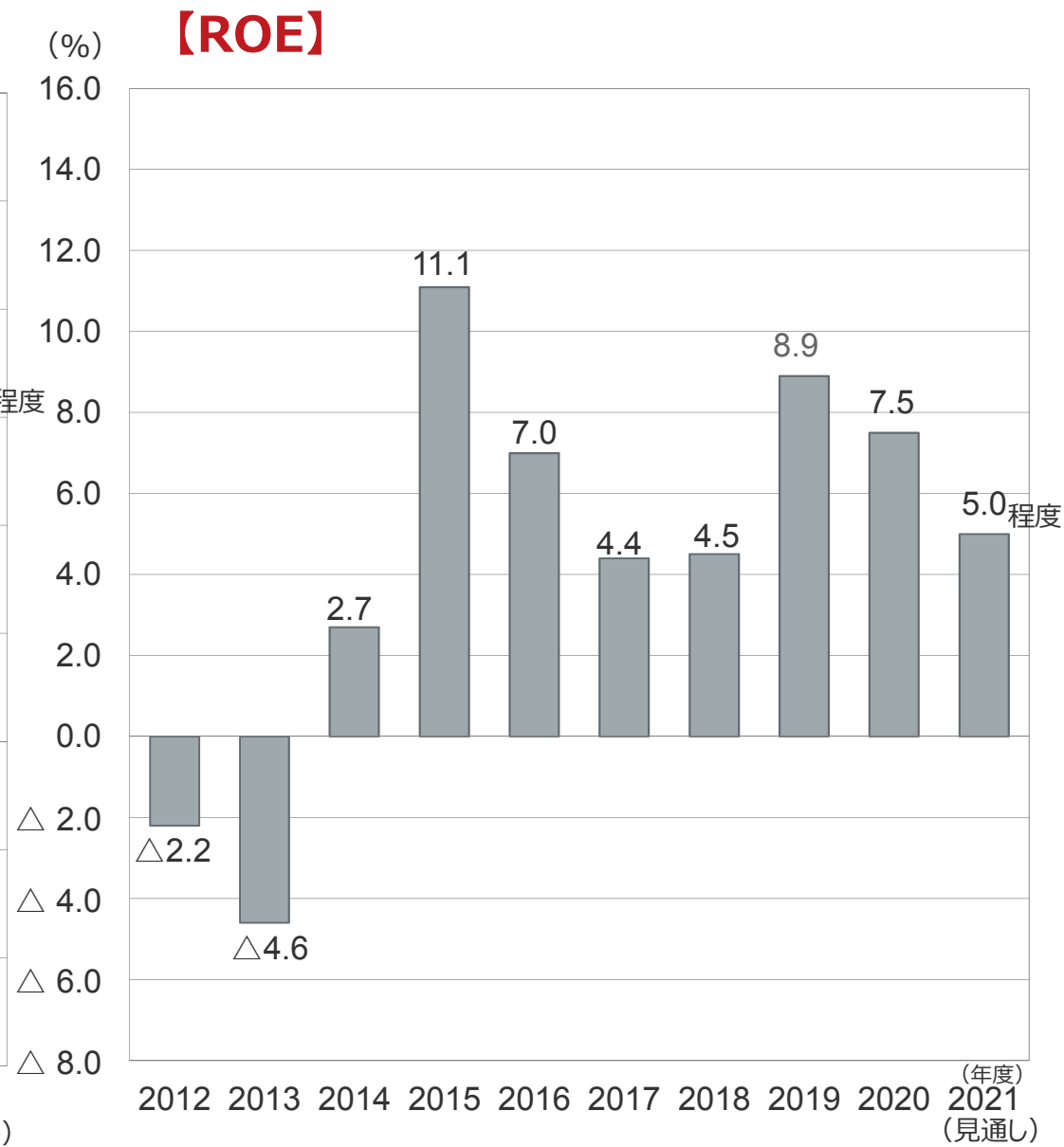
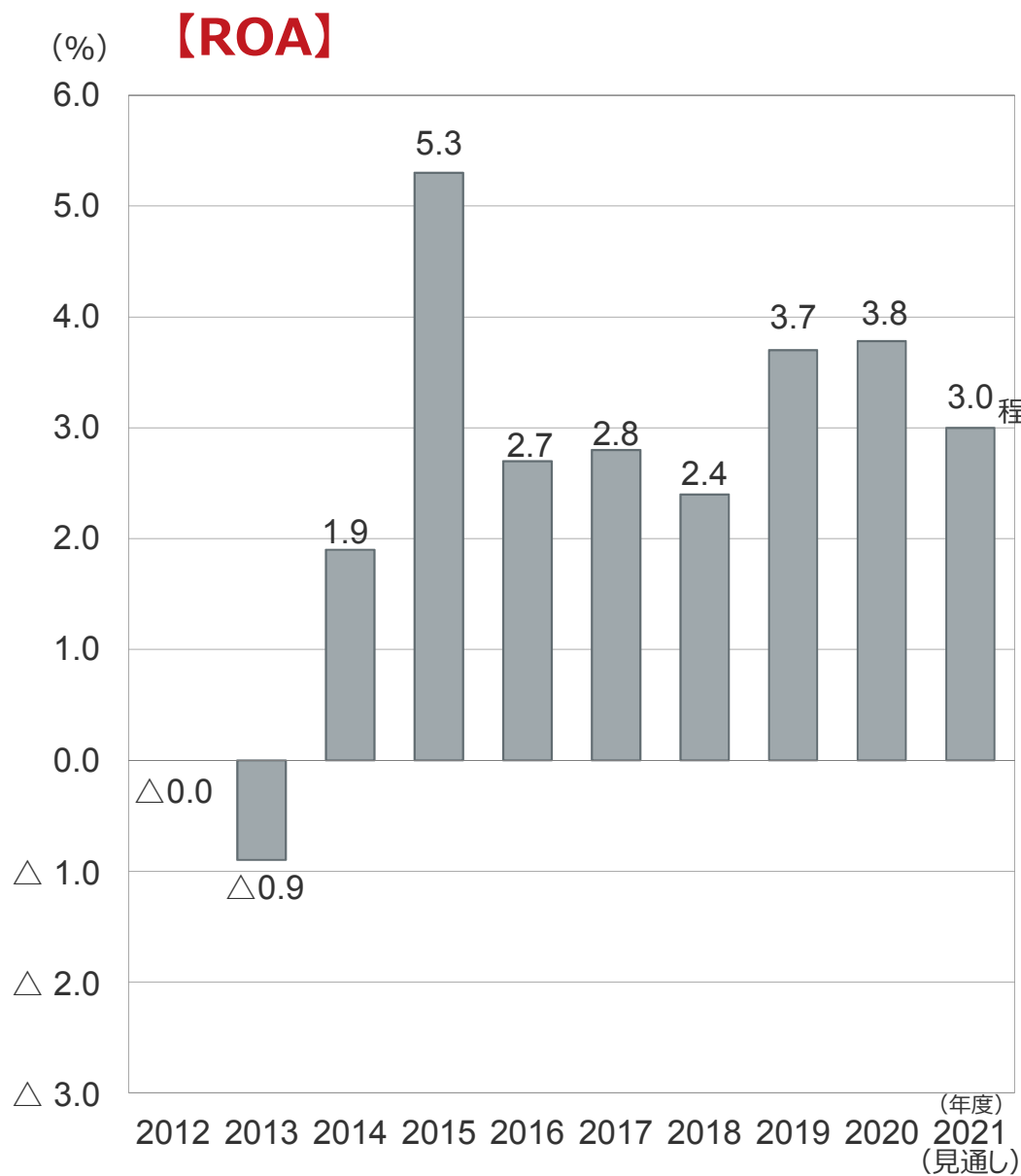
(倍) **【D/Eレシオ】**



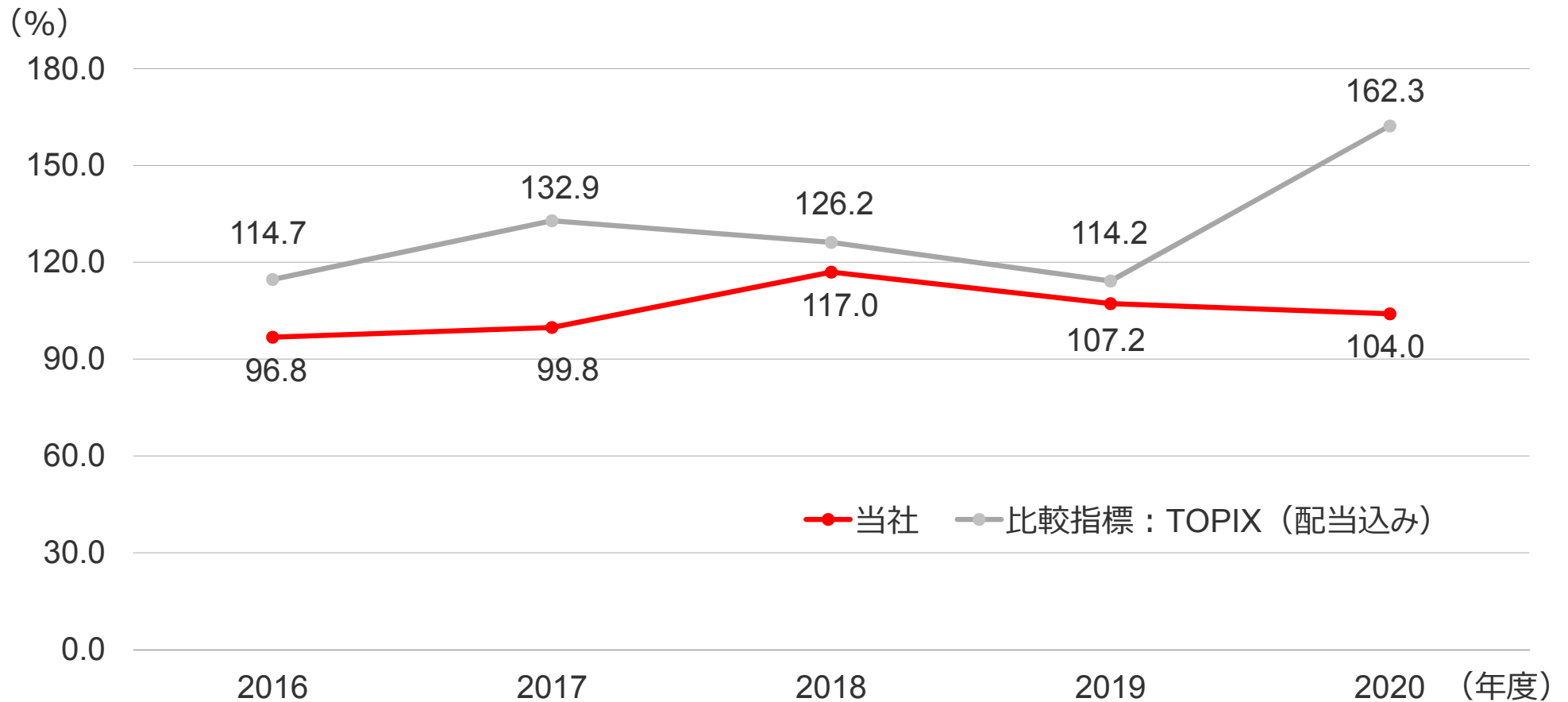
【格付取得状況(長期格付)】

Moody's	R&I	JCR
A3	A+	AA

連結ROA・ROEの推移



株主総利回り（TSR）の推移



株主総利回り（トータルシェアホルダーリターン）とは、株式投資により得られた収益（配当とキャピタルゲイン）を投資額（株価）で割った比率をいう。

<計算式>

$$\frac{\text{各事業年度末日の株価} + \text{当事業年度の4事業年度前から各事業年度までの1株当たり配当額の累計額}}{\text{当事業年度の5事業年度前の末日の株価}}$$

ミライズグループ販売状況について

		2020年度	目標
域内	電気新料金メニュー加入実績	約234万件 (3月時点)	—
	各種サービスと電気またはガスとのセット販売件数	約4.9万件 (3月時点)	2021年度以降早期に10万件獲得
域外	エリア外での販売電力量	111億kWh	2020年代後半、首都圏の販売電力量 年間約300億kWhに拡大
	CDIナジーダイレクトの供給件数（電力・ガス計）	約37万件 (4月14日時点)	将来的に約300万件相当のお客さまへの サービス提供
ガス	ガス・LNG販売量	111.4万t	2020年代後半で年間300万tに拡大
	ガス料金メニュー申込み件数	約42.8万件 (4月7日時点)	—

ミライズ販売電力量の月別推移

(億kWh)

	2020年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度
低圧	29	26	20	24	31	30	23	25	25	42	34	30	339
高圧・ 特別高圧	60	54	61	67	68	73	66	63	63	64	64	65	769
合計	90	80	81	91	99	103	89	88	88	105	98	95	1,107

(億kWh)

	2019年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度
低圧	30	28	21	23	34	30	24	25	28	39	34	31	346
高圧・ 特別高圧	65	65	70	75	75	76	71	65	65	65	67	67	826
合計	95	93	91	98	108	106	95	90	92	104	101	98	1,172

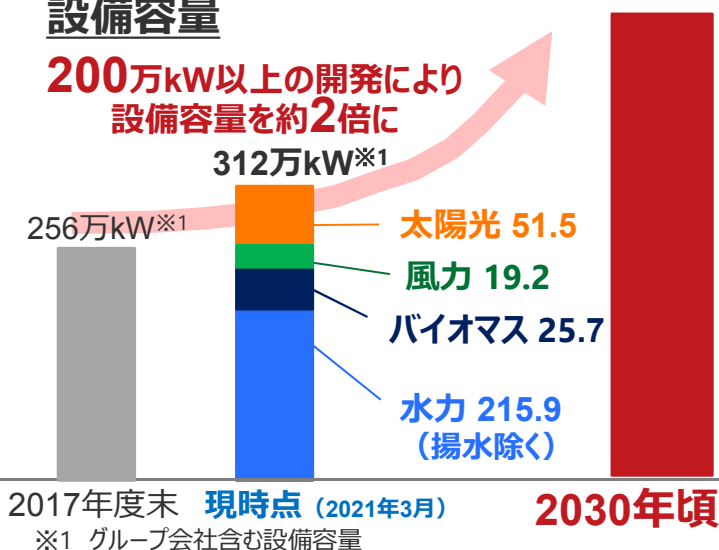
※ 端数処理の関係で合計が合わない場合があります。

再生可能エネルギー事業の概要

➤ 2030年頃に200万kW以上の開発目標に対し、現時点の持分出力は、グループ全体で約56万kW。目標に対して28%程度進捗（2017年度末～2021年3月までの進捗）。

設備容量

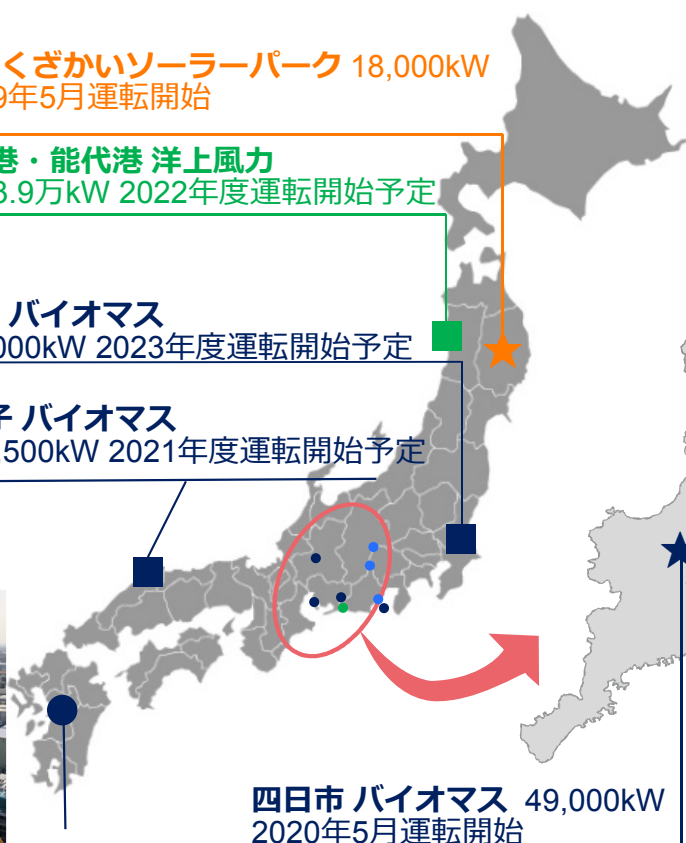
200万kW以上の開発により
設備容量を約2倍に



- 太陽光 51.5
- 風力 19.2
- バイオマス 25.7
- 水力 215.9 (揚水除く)

当社の主な開発地点

- 宮古くざかいソーラーパーク 18,000kW
2019年5月運転開始
- 秋田港・能代港 洋上風力
約13.9万kW 2022年度運転開始予定
- 神栖 バイオマス
50,000kW 2023年度運転開始予定
- 米子 バイオマス
54,500kW 2021年度運転開始予定



- ごうど バイオマス
7,500kW 2022年度運転開始予定
- 内ヶ谷 水力
720kW 2025年度運転開始予定
- 清内路 水力
5,600kW 2022年度運転開始予定
- 黒川平 水力
170kW
2021年度運転開始予定
- いちしろ 水力
160kW
2021年度運転開始予定
- 安倍川 水力
7,500kW
2024年度運転開始予定
- 御前崎港 バイオマス
74,950kW
2023年度運転開始予定
- 愛知蒲郡 バイオマス
50,000kW 2023年度運転開始予定
- 【着工準備中】あつみ 陸上風力
7,400kW 2021年度運転開始予定

- 現在の状況
- ★ 運転開始
 - 建設中
 - 開発決定
 - その他



清内路水力発電所
(建設状況)



米子バイオマス発電所
(建設状況)

海外事業の概要①

- リスクとリターンのバランスを考慮し、送電、配電、再エネ発電、小売（新サービス）に分散して投資
- Enecoを**欧州戦略上のプラットフォーム**と位置付け、再エネ・小売・新サービス等の成長領域を拡大

【オランダ総合エネルギー事業会社Eneco社の買収について】

案件概要		
出資額	41億ユーロ（約5千億円） 出資比率：三菱商事80%、中部電力20%（2020年3月出資）	
Enecoの概要	事業	電力・ガス・熱供給の総合エネルギー事業 （年間電力取扱量約300億kWh、ガス取扱量約500億kWh(電力換算)、顧客口数約600万口）
	地域	オランダ、ベルギー、ドイツ等
	財務状況	Eneco純利益（2020年末） 118百万ユーロ（約146億円 ^{※1} ） 前年比約48%増 中部電力連結影響（2020年度）：1億円 ^{※2}

※1 1ユーロ=125円換算

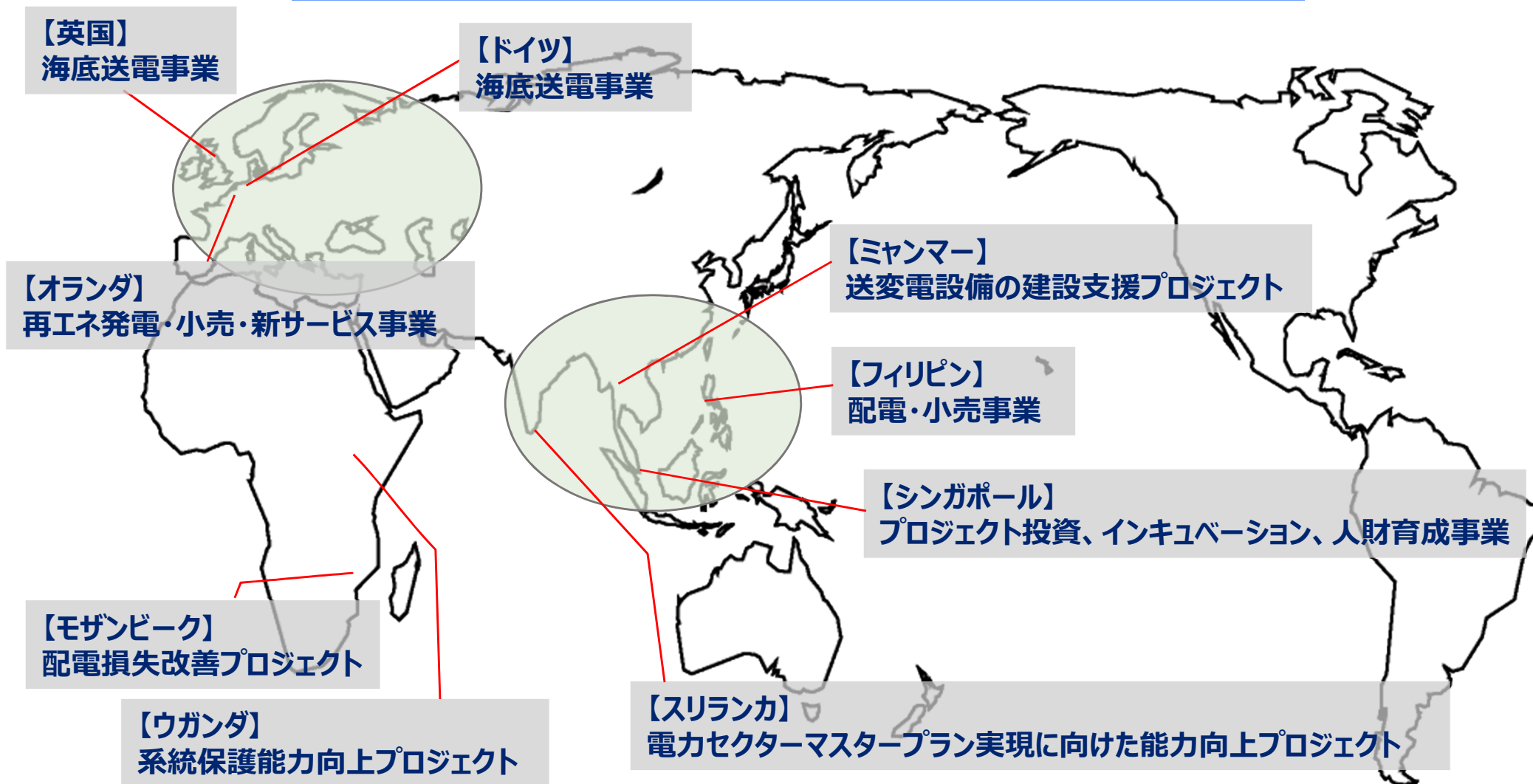
※2 2020.12に、オランダでの法人税率引下げが撤回されたことにより、会計処理として、一時的な税金費用が発生

【Enecoと当社とのコラボレーション（例）】

Eneco→当社	再エネ	・Enecoが保有する洋上風力の開発・運営に関する知見の当社への還元
当社→Eneco	再エネ・熱供給等	・当社が持つ保守・メンテナンスに関する知見の提供
	小売	・ミライズのお客さまの在欧現地法人に対するグリーン電力販売およびルーフトップソーラー設置の提案

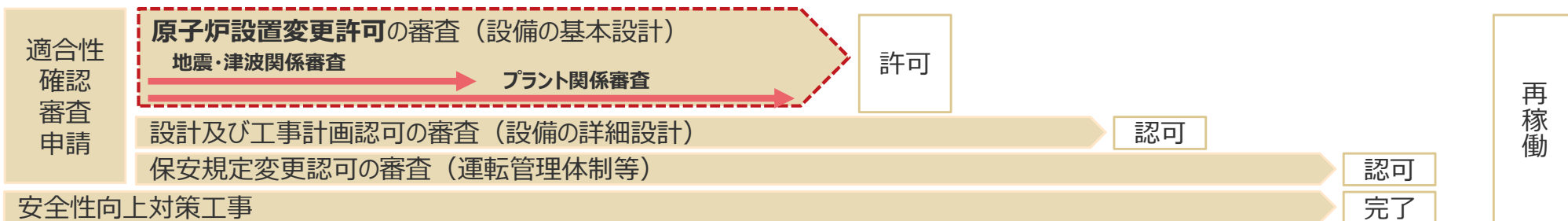
＜再エネ開発目標＞
2025年までに再エネ持分容量を320万kWに増加
（2020年末：持分容量約170万kW）

現在の主な投資プロジェクト・コンサル案件

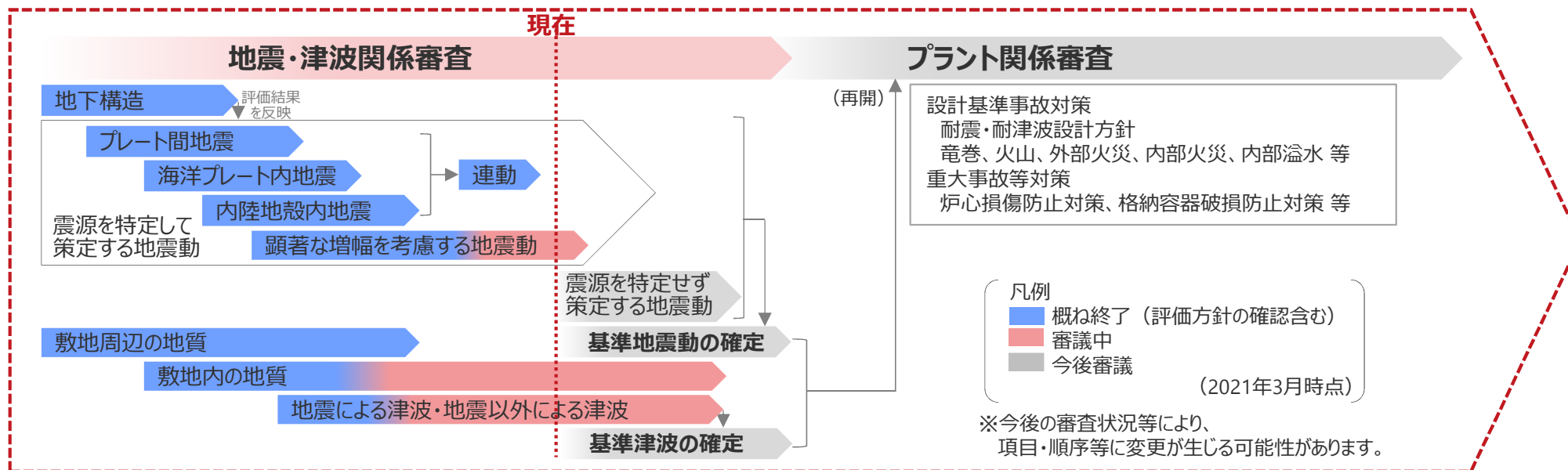


浜岡原子力発電所の審査状況

浜岡原子力発電所は、「福島第一原子力発電所のような事故を二度と起こさない」という固い決意のもと、安全性向上対策を進めており、原子力規制委員会による新規制基準への適合性確認審査を受けています。**基準地震動・基準津波の概ね確定後は、プラント関係審査が進むとともに、これらに基づき安全性向上対策の内容がご説明できるようになります。**



原子炉設置変更許可の主な審査項目と浜岡原子力発電所の審査進捗状況



当資料取扱上のご注意

当資料に記載の将来の計画や見通し等は、現在入手可能な情報に基づき、計画のもとになる前提、予想を含んだ内容を記載しております。

これらの将来の計画や見通し等は、潜在的なリスクや不確実性が含まれており、今後の事業領域を取りまく経済状況、市場の動向等により、実際の結果とは異なる場合がございますので、ご承知おきいただきますようお願い申し上げます。

また、当資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。



中部電力